

講義コード	2P063011
講義名	運動療法概論Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	基礎理学療法学
科目ナンバリング	P2-0403
対象学科・学年	理学療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 谷埜 予士次	指定なし

担当教員

谷埜予士次

講義の目的

関節可動域の維持・拡大、および筋力維持・強化のための運動療法の考え方を理解する。

到達目標

解剖学、生理学、および運動学で学んだ知識がどのように運動療法に役立つのかを理解する。

授業計画表

授業計画

1. 運動療法とは
2. 触診実技①
3. 触診実技②
4. 触診実技③
5. 関節可動域拡大のための運動療法
6. ・他動運動実技①
7. ・他動運動実技②
8. ・他動運動実技③
9. ・他動運動実技④
10. 筋力強化のための運動療法
11. ・OKCでの筋力強化練習①
12. ・OKCでの筋力強化練習②
13. ・CKCでの筋力強化練習③
14. 復習①
15. 復習②

成績の評価

定期試験にて評価する。

自己学習

「人体の構造」・「人体の機能」・「基礎運動学」の復習をしておいてください。具体的な復習

範囲は指示しますので必ず自己学習すること。

履修上の注意

実技も行いますので、その際は動きやすい服装を用意してください。

テキスト

「運動器疾患の評価と理学療法評価」 (アイペック)
鈴木俊明 監修

参考文献

「基礎運動学 第6版」 (医歯薬出版)
中村隆一・他

オフィスアワー

月曜日：昼休み

研究室

診療・研究棟3階308研究室

授業用E-mail

tanino@kansai.ac.jp

講義コード	2P064011
講義名	運動療法概論実習
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	基礎理学療法学
科目ナンバリング	P2-0404
対象学科・学年	理学療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 谷埜 予士次	指定なし

担当教員

谷埜予士次

講義の目的

「運動療法概論I・II」で学習した運動療法について、学生同士で実習する。

到達目標

手技を習得するというよりも、解剖学、生理学、運動学的知識に基づいているということを再確認する。また最近の運動療法についての文献抄読を行い、それをもとにディスカッションして理解を深める。

授業計画表

授業計画

1. 上肢運動器疾患の運動療法①
2. 上肢運動器疾患の運動療法②
3. 上肢運動器疾患の運動療法③
4. 上肢運動器疾患の運動療法④
5. 上肢運動器疾患の運動療法⑤
6. 下肢運動器疾患の運動療法①
7. 下肢運動器疾患の運動療法②
8. 下肢運動器疾患の運動療法③
9. 下肢運動器疾患の運動療法④
10. 下肢運動器疾患の運動療法⑤
11. 下肢運動器疾患の運動療法⑥
12. 下肢運動器疾患の運動療法⑦
13. 頸部・体幹の運動器疾患に対する運動療法①
14. 頸部・体幹の運動器疾患に対する運動療法②
15. 頸部・体幹の運動器疾患に対する運動療法③
16. 頸部・体幹の運動器疾患に対する運動療法④
17. 上肢運動器疾患の運動療法に関する文献抄読会①
18. 上肢運動器疾患の運動療法に関する文献抄読会②

19. 下肢運動器疾患の運動療法に関する文献抄読会①
20. 下肢運動器疾患の運動療法に関する文献抄読会②
21. 頸部・体幹の運動療法に関する文献抄読会①
22. 頸部・体幹の運動療法に関する文献抄読会②
23. まとめ

成績の評価

定期試験90%、文献抄読会のプレゼンテーション20%にて総合的に評価する。

自己学習

「人体の構造I」・「人体の機能I」の復習をしておくこと。
また、講義前・後で指定する教科書のページをよく読んでおくこと。自己学習の成果をみるために復習テストも実施します。

履修上の注意

実技が中心になるので、動きやすい服装を用意してください。

テキスト

「運動器疾患の評価と理学療法」(アイペック)
鈴木俊明 監修
その他、適宜資料を配布する。

参考文献

「理学療法ハンドブック」(協同医書)
細田多穂・柳澤 健 編集

オフィスアワー

月曜日：昼休み

研究室

診療・研究棟3階308研究室

授業用E-mail

tanino@kansai.ac.jp

講義コード	2P067023
講義名	英語表現法Ⅲ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1304
対象学科・学年	理学療法学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 文野 住文	指定なし
教員	吉田 仁志	指定なし

担当教員

吉田仁志、文野住文、山崎航

講義の目的

(前期：吉田) 日常生活の様々な話題について英文を読んだり、英語で発信できるようになること。

(後期：文野・山崎) 理学療法の最新の知識を得るためには、国内だけでなく海外の論文を読む習慣が大切である。そこで本科目では、海外の理学療法関連の研究論文を読み、最新の知識を得ることを目標とする。また、論文に書かれている医学用語は授業において確実に覚えることを目標とする。

到達目標

(前期：吉田) 発音・語彙・文法などの演習を通して、英語という言語の特質を理解すること。

(後期：文野・山崎) 理学療法関連の英語論文を読むことで、専門用語や医学論文特有の表現を理解し、最新の理学療法の知識を得ること。

授業計画表

授業計画

(前期：吉田)

1. 盛んになる国際観光
2. 海外で上昇する日本食の人気
3. ホームステイ
4. オリンピックとパラリンピック
5. ノーベル賞
6. 健康維持
7. 就職活動
8. 大学改革
9. スマートフォンの利点と欠点
10. 日本の宇宙科学の快挙
11. 日本の食料自給率

12. 低い出生率と高齢化社会
13. 地球温暖化
14. 拡大する貧富の格差
15. マナーの悪さ

(後期：文野・山崎)

1. 神経疾患理学療法関連論文の英文抄読1
2. 神経疾患理学療法関連論文の英文抄読2
3. 神経疾患理学療法関連論文の英文抄読3
4. 神経疾患理学療法関連論文の英文抄読4
5. 神経疾患理学療法関連論文の英文抄読5
6. 神経疾患理学療法関連論文の英文抄読6
7. まとめ1
8. 運動器疾患理学療法関連論文の英文抄読1
9. 運動器疾患理学療法関連論文の英文抄読2
10. 運動器疾患理学療法関連論文の英文抄読3
11. 運動器疾患理学療法関連論文の英文抄読4
12. 運動器疾患理学療法関連論文の英文抄読5
13. 運動器疾患理学療法関連論文の英文抄読6
14. 運動器疾患理学療法関連論文の英文抄読7
15. まとめ2

※1～7回の内容については文野が担当し、8～15回の内容については山崎が担当する。

成績の評価

(前期：吉田) 定期試験70%、平常点30%で評価する。

(後期：文野・山崎) 定期試験80%、課題点10%、平常点10%で評価する。

自己学習

前期・後期ともに入念な予習と復習を行うこと。

履修上の注意

必ず(電子)英和・医学英語辞書を持参すること。英文を楽しみ、積極的に英文を読めるようになること。

テキスト

(前期：吉田) 「文法・用法もよくわかるトピック英作文15章」(鶴見書店) 木塚 晴夫(著) ISBN978-4-7553-0379-1

(後期：文野・山崎) 授業内に資料を配布する。

参考文献

特になし

オフィスアワー

火曜日・水曜日・木曜日 12:10～13:10

研究室

5号館7階C720研究室 (吉田)

3号館3階PT教員室 (文野・山崎)

授業用E-mail

bunno@kansai.ac.jp

講義コード	2P069013
講義名	衛生・公衆衛生学Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進
科目ナンバリング	P2-0202
対象学科・学年	理学療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 宮本 邦彦	指定なし

担当教員

宮本 邦彦

講義の目的

衛生・公衆衛生学は、人間集団の健康を現実の生活環境の中で扱う学問であり、その内容は、社会の組織的な努力を通して、疾病を予防し、健康増進を図り、生活の質を高める科学・技術である。ここでは衛生的側面と公衆衛生的側面から健康をとらえ健康増進を図るための基礎的な手法と主な疾病の発生条件と予防法を学ぶ。

到達目標

人々の健康に影響を及ぼす様々な要因について理解し、日本で実施している保健・福祉の手法を理解し、よりよい手法についてよりよい手法に変える。

授業計画表

授業計画

1. 衛生学・公衆衛生学の序論
2. 疫学1 疫学とは 疾病量の把握
3. 疫学2 疫学の方法 コホート研究と症例対照研究
4. 疾病予防と健康管理 疾病予防の段階
5. 疾病予防と健康管理 健康増進
6. 生物的環境要因-微生物を中心に-
7. 中間試験
8. 主な疾病の予防 感染症の予防
9. 主な疾病の予防 国内の主な感染症 予防接種
10. 主な疾病の予防 循環器系の疾患(心疾患、高血圧、脳血管疾患)
11. 主な疾病の予防 代謝異常の疾患(糖尿病、脂質異常症)、痛風
12. 主な疾病の予防 がんの予防、腎疾患、アレルギー、不慮の事故
13. 環境保健 人間の環境、環境把握と評価、物理的環境、化学的環境
14. 環境の管理 大気と水、廃棄物
15. まとめ

成績の評価

定期試験の成績（45%）、中間試験成績（45%）、提出(10%)を合わせて評価する。

自己学習

講義の前にテキストを通読しておくこと。

履修上の注意

理解度を見るため中間試験を行う。配付資料は試験問題に含まれます。整理して、保管しておくこと。

テキスト

「シンプル衛生公衆衛生学 2016」（南江堂）監修：鈴木庄亮 編集：小山 洋・辻 一郎

参考文献

「国民衛生の動向（厚生指標）」財団法人厚生統計協会

講義コード	2P070013
講義名	衛生・公衆衛生学Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進
科目ナンバリング	P2-0203
対象学科・学年	理学療法学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 松本 健治	指定なし

担当教員

松本 健治

講義の目的

健康問題は感染症から生活習慣病と大きく変貌したが、わが国は世界最長寿国となった。このような健康をめぐる今日的課題の背景にある地域社会における各種の疫学的要因について、正確な知識が身に付くことを目的とする。

到達目標

公衆衛生学の考え方や疫学の方法論を体系的に理解することができ、医療に関する専門職としての意識をもち、将来の地域・職業生活に活かすことを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. ライフスタイルと健康
2. 疫学
3. 保健統計
4. 疾病予防と健康管理
5. 主な疾病の予防
6. 母子保健
7. 学校保健
8. 産業保健 (1)
9. 産業保健 (2)
10. 環境保健 (1)
11. 環境保健 (2)
12. 老人保健、地域保健
13. 精神保健
14. 国際保健、保健医療福祉の制度と法規
15. まとめ、これからの公衆衛生

成績の評価

筆記試験（ %）と出席状況を含む受講態度（ %）で評価する。

自己学習

学習内容の理解度を深めるため、講義の復習と1週間前に配布した資料と教科書で予習することが肝要。

履修上の注意

無断欠席はよくない、最悪。よく質問しますので、参加（健康教育でいう）してください。

テキスト

「シンプル公衆衛生学2017」（南江堂）
1週間前に講義内容の抄録と関連資料を配付します。

参考文献

「国民衛生の動向2017/2018」（厚生労働統計協会）

オフィスアワー

開講時限の前後休憩時間

研究室

講師控室

授業用E-mail

kenmatsu@wakayama-med.ac.jp

講義コード	2P074012
講義名	加齢医学（老年医学）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進
科目ナンバリング	P2-0215
対象学科・学年	理学療法学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 紀平 為子	指定なし

担当教員

紀平為子

講義の目的

超高齢社会である日本において、年齢を重ねても健康で生き生きとした生活を継続することは人々の願いであり、医療の重要課題である。とりわけ認知症や脳血管障害、パーキンソン病などの神経変性疾患、骨粗鬆症、転倒などへの取り組みは介護予防のためにも極めて重要である。さらに健康長寿を達成する上で高血圧症、糖尿病、脂質代謝異常などの生活習慣病への対策と予防が求められている。本科目では、加齢に伴う生理的、身体的、精神的変化ならびに高齢者特有の疾患を理解し、高齢者に対して健康増進と日常生活のQOL向上をはかるため適切な介入や指導が行える医療者の養成を目的とする。

到達目標

加齢に伴う生理的、身体的、精神的変化ならびに高齢者特有の疾患を理解し、高齢者に対して健康維持・増進と日常生活のQOL向上をはかるため適切な介入・指導が行える。

授業計画表

授業計画

1. 高齢社会と加齢医学、加齢の機序
2. 生理的老化と病的老化
3. 高齢者の病態と疾患の一般的特徴
4. 認知症をきたす疾患
5. 意識障害・せん妄・失神
6. 歩行障害と運動生理
7. 嚥下障害と誤嚥
8. 高齢者に多い神経疾患 1
9. 高齢者に多い神経疾患 2
10. 高齢者の脳血管障害
11. 高齢者の栄養と消化器疾患
12. 高齢者に多い呼吸器疾患
13. 高齢者に多い感染症・免疫・膠原病

14. 高齢者に多い腎・泌尿器系疾患

15. 高齢者の生活機能障害の評価と介護・医療

成績の評価

試験・レポート(小テストを含む)・平常点の結果を総合して評価する

自己学習

加齢と高齢社会について多方面から情報収集し、情報の整理と理解をすすめ、問題意識をもって講義に臨むこと。

履修上の注意

自己学習をすすめ、自分の考えや意見を積極的に発表できるように取り組むこと。

テキスト

特に指定しない。

参考文献

老年医学テキスト(MEDICAL VIEW) 社団法人日本老年医学会 編

研究室

診療・研究棟4階408研究室

授業用E-mail

tkihira815@kansai.ac.jp

講義コード	2P078022
講義名	外科各論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	4 時限
科目分類・分野名	疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進
科目ナンバリング	P2-0210
対象学科・学年	理学療法学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 喜馬 通博	指定なし

担当教員

喜馬 通博・岩橋 秀明

講義の目的

臨床の場においてチーム医療を実践する一員として、患者・家族とはもちろん職場同僚や他職種、とりわけ医師、看護師、他技師職等と疾患、病状の現症、回復状況、治療方針、治療のゴールに関して医師の疎通を図り、患者についての医療情報を共有しつつ、自らの役割を理解して技量を発揮できるよう、外科疾患に関する基礎知識を身につけること。

到達目標

日常一般的によく遭遇する疾患について、原因、症状、診断、外科的治療法を解説し、理解を求める。

授業計画表

授業計画

1. 脳卒中について
2. 脳神経外科 解剖
3. 脳神経外科 検査
4. 脳神経疾患の主要な兆候 1
5. 脳神経疾患の主要な兆候 2
6. 脳血管障害 1
7. 脳血管障害 2
8. 頭部外傷
9. 脳腫瘍
10. 脳神経外科 手術、その他
11. 頭頸部疾患
12. 甲状腺疾患・副甲状腺の疾患
13. 乳腺、胸壁・胸膜・横隔膜
14. 気管・気管支及び肺
15. 縦隔、心臓①
16. 心臓②

17. 血管
18. 食道
19. 胃及び十二指腸
20. 小腸および結腸
21. 直腸および肛門
22. 肝臓・胆道系および膵臓①
23. 肝臓・胆道系および膵臓②
24. 脾・門脈、副腎
25. 急性腹症、腹壁・臍および後腹膜
26. ヘルニア
27. 外科栄養学
28. 小児外科①
29. 小児外科②、高齢者外科
30. 予備

成績の評価

定期テスト、小テスト、授業態度を総合評価して判定する。

履修上の注意

テキストを参考に要点を講義する。必要に応じプリントを配布し、理解しやすくなるよう配慮する。上記は目安であり、内容や順番の一部変更等あります。

テキスト

「NEW外科学 改訂第3版」 (南江堂) 出月康夫 他編
「脳神経疾患ビジュアルブック」 (学研メディカル秀潤社)
落合慈之 他編

参考文献

「標準外科学」 (医学書院)

監修：加藤 治文 編集：畠山 勝義／北野 正剛／若林 剛

講義コード	2P079011
講義名	外科診断学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	5 時限
科目分類・分野名	疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進
科目ナンバリング	P2-0209
対象学科・学年	理学療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 喜馬 通博	指定なし

担当教員

喜馬 通博

講義の目的

外科系の科目に特有な診断知識、技術について講義する。

到達目標

外科的治療に必要な病態生理や、手術適応を判断する症候、症状、身体診察技術、検査、臨床所見等の一般的知識の取得。

授業計画表

授業計画

1. 外科医学の概観とその特殊性、基本的知識
2. 外科的侵襲、出血と止血、輸血
3. ショック
4. 創傷治癒、損傷、皮膚と皮下組織
5. 感染と炎症
6. 免疫
7. 腫瘍
8. 臓器移植、人工臓器とME
9. 水分・電解質、血液/ガス、酸・塩基平衡
10. 外科栄養法
11. 手術患者の術前管理
12. 手術患者の術後管理
13. 老人の特殊性
14. 救急治療
15. 予備

成績の評価

定期テスト、小テスト、授業態度を総合評価して判定する。

履修上の注意

テキストを参考に要点を講義する。必要に応じプリントを配布し、理解しやすくなるよう配慮する。上記は目安であり、内容や順番の一部変更等あります。

テキスト

「NEW外科学 改訂第3版」 (南江堂) 出月康夫 他編

参考文献

「標準外科学」 (医学書院)

監修：加藤 治文

編集：畠山 勝義／北野 正剛／若林 剛

講義コード	2P099011
講義名	基礎運動学Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	人体の構造と機能及び心身の発達
科目ナンバリング	P2-0108
対象学科・学年	理学療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 谷埜 予士次	指定なし

担当教員

谷埜予士次

講義の目的

理学療法の目的は、障がいを持つ方々の基本動作能力を改善させることである。したがって、理学療法士は動作を構成する身体運動の仕組みについて理解しておく必要がある。本講義では運動にかかわる主に骨・関節の構造と機能、筋の作用を理解する。

到達目標

解剖学および生理学で習得した知識から、身体運動をできるようにすることを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 股関節の運動①
2. 股関節の運動②
3. 股関節の運動③
4. 膝関節の運動①
5. 膝関節の運動②
6. 膝関節の運動③
7. 足関節・足部の運動①
8. 足関節・足部の運動②
9. 足関節・足部の運動③
10. 頸椎の運動①
11. 頸椎の運動②
12. 胸椎と胸郭の運動①
13. 胸椎と胸郭の運動②
14. 腰椎・体幹の運動①
15. 腰椎・体幹の運動②

成績の評価

定期試験にて評価する。

自己学習

「人体の構造I」・「人体の機能I」の復習をしておくこと。
また、講義前・後で指定する教科書のページをよく読んでおくこと。

履修上の注意

実技も行いますので、その際は動きやすい服装を用意してください。

テキスト

「基礎運動学 第6版補訂」(医歯薬出版)
中村隆一・他

参考文献

「日本人体解剖学 上巻」(南山堂)
金子丑之助
「筋骨格系のキネシオロジー 原著第2班」(医歯薬出版)
嶋田智明・他監修

オフィスアワー

月曜日：昼休み

研究室

診療・研究棟3階308研究室

授業用E-mail

tanino@kansai.ac.jp

講義コード	2P100011
講義名	基礎運動学実習
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	5 時限
科目分類・分野名	人体の構造と機能及び心身の発達
科目ナンバリング	P2-0109
対象学科・学年	理学療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 谷埜 予士次	指定なし

担当教員

谷埜予士次・山崎 航

講義の目的

理学療法の目的は、障がいを持つ方々の基本動作能力を改善させることである。したがって、理学療法士は動作を構成する身体運動の仕組みについて理解しておく必要がある。本講義では運動にかかわる主に骨・関節の構造と機能、筋の作用を理解する。

到達目標

理学療法評価で重要な動作を分析する力を養うことを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 生体力学の基礎①
2. 生体力学の基礎②
3. 姿勢①
4. 姿勢②
5. 姿勢制御①
6. 姿勢制御②
7. 姿勢観察と分析
8. 歩行
9. 歩行の関節運動
10. 歩行の運動力学的分析①
11. 歩行の運動力学的分析②
12. 歩行の筋活動①
13. 歩行の筋活動②
14. 異常歩行①
15. 異常歩行②
16. 走動作①
17. 走動作②
18. 基本動作の観察と分析①

19. 基本動作の観察と分析②
20. 基本動作の観察と分析③
21. 基本動作の観察と分析④
22. 復習②
23. 復習③

成績の評価

定期試験にて評価する。

自己学習

「人体の構造I」・「人体の機能I」の復習をしておくこと。
また、講義前・後で指定する教科書のページをよく読んでおくこと。

履修上の注意

実技も行いますので、その際は動きやすい服装を用意してください。

テキスト

「基礎運動学 第6版補訂」(医歯薬出版)
中村隆一・他

参考文献

「日本人体解剖学 上巻」(南山堂)
金子丑之助
「筋骨格系のキネシオロジー 原著第2班」(医歯薬出版)
嶋田智明・他監修
「動作のメカニズムがよくわかる 実践!動作分析」(医歯薬出版)
上杉雅之 監修

オフィスアワー

月曜日：昼休み(谷埜)

研究室

診療・研究棟3階308研究室(谷埜)
3号館3階理学療法教員室(山崎)

授業用E-mail

tanino@kansai.ac.jp

講義コード	2P105011
講義名	義肢装具学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	理学療法治療学
科目ナンバリング	P3-0614
対象学科・学年	理学療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大沼 俊博	指定なし

担当教員

大沼 俊博・早田 荘・野口 翔平

講義の目的

障がい者が義肢および装具を使用することは、日常生活を獲得するための手段といえる。理学療法士がリハビリテーションの中で義肢・装具の役割を理解し、適切なアドバイスをすることが臨床では求められる。そこで基本的な義肢・装具の知識を身につけ、それらを用いた運動療法の理論を学習する。

到達目標

義肢装具学の基礎的な内容の理解

授業計画表

授業計画

1. 装具学総論 (大沼)
2. 脳血管障害片麻痺に対する装具療法 (下肢) ① (大沼)
3. 脳血管障害片麻痺に対する装具療法 (下肢) ② (大沼)
4. 脳血管障害片麻痺に対する装具療法 (下肢) ③ (大沼)
5. 脳血管障害片麻痺に対する装具療法 (上肢) (大沼)
6. 骨関節疾患に対する装具療法① (野口)
7. 骨関節疾患に対する装具療法② (野口)
8. 脊髄損傷患者に対する装具療法 (野口)
9. 小児疾患に対する装具療法 (野口)
10. 末梢神経損傷に対する装具療法 (野口)
11. 義肢学総論 (早田)
12. 義足の種類と機能① (早田)
13. 義足の種類と機能② (早田)
14. 義手の種類と機能① (早田)
15. 義手の種類と機能② (早田)

成績の評価

定期試験

自己学習

授業終了後、テキストおよび配布した資料と合わせて復習すること。

テキスト

「15レクチャーシリーズ理学療法テキスト 義肢学」
(中山書店) 永富史子 著
「15レクチャーシリーズ理学療法テキスト 装具学」
(中山書店) 佐竹将宏 著

研究室

3号館3階理学療法教員室 (大沼)

授業用E-mail

ohnuma@kansai.ac.jp

講義コード	2P124011
講義名	検査測定学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	5 時限
科目分類・分野名	理学療法評価学
科目ナンバリング	P2-0505
対象学科・学年	理学療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 文野 住文	指定なし

担当教員

文野住文、山崎航

講義の目的

理学療法評価で用いる検査測定について実技演習を取り入れながら講義する。具体的な検査測定項目は、形態測定、関節可動域測定、徒手筋力検査、感覚検査、反射検査である。

到達目標

臨床実習において円滑に理学療法評価を遂行できるための基礎知識を得ることを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 検査測定学概論
2. 形態測定の目的
3. 四肢長測定
4. 周径測定
5. 関節可動域測定の目的
6. 上肢の関節可動域測定
7. 下肢の関節可動域測定
8. 頸部・体幹の関節可動域測定
9. 徒手筋力検査の目的
10. 上肢の筋力検査
11. 下肢の筋力検査
12. 頸部・体幹の筋力検査
13. 感覚検査の目的と方法
14. 反射検査の目的と方法
15. まとめ

成績の評価

定期試験90%、小テストを含む平常点10%で評価する。

自己学習

理学療法検査技術を習得するにあたり、生理学・解剖学の知識が必要不可欠であるため、復習しておくこと。

また、授業の予習・復習もしっかりと行うこと。

履修上の注意

技術も行うため、その際は動きやすい格好で受講すること。

テキスト

「臨床理学療法評価法」(アイペック) 鈴木俊明 監修

「運動器疾患の評価と理学療法」(アイペック) 鈴木俊明 監修

「神経疾患の評価と理学療法」(アイペック) 鈴木俊明 監修

参考文献

「新・徒手筋力検査法 原著第9版」(協同医書出版社) 津山直一・他訳

「ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版」(南山堂) 田崎義昭・他

オフィスアワー

火曜日・水曜日・木曜日 12:10~13:10

研究室

3号館3階PT教員室 (文野・山崎)

授業用E-mail

bunno@kansai.ac.jp

講義コード	2P140011
講義名	骨関節疾患理学療法学Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	理学療法治療学
科目ナンバリング	P2-0601
対象学科・学年	理学療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 隆紀	指定なし

担当教員

吉田隆紀、山崎 航

講義の目的

運動器疾患の特に上肢疾患に対しての理学療法評価や理学療法技術について学習する。基本的には、各関節における機能解剖学視点から疾患の特徴を学び、その疾患におけるリスク管理や理学療法の実技を踏まえ、授業を行う。

到達目標

運動器疾患の病態及び原因を把握して、評価及び治療への応用を理解することを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 運動器疾患に対する理学療法の考え方①
2. 運動器疾患に対する理学療法の考え方②
3. 骨折に対する理学療法の基礎①
4. 骨折に対する理学療法の基礎②
5. 脱臼に対する理学療法の基礎①
6. 脱臼に対する理学療法の基礎②
7. 捻挫に対する理学療法の基礎①
8. 捻挫に対する理学療法の基礎②
9. 肩関節疾患 肩関節の機能解剖
10. 肩関節疾患 肩関節周囲炎①
11. 肩関節疾患 肩関節周囲炎②
12. 肩関節疾患 腱板損傷・断裂後
13. 肩関節疾患 肩関節周囲の骨折と脱臼
14. 肩関節疾患の理学療法評価（実技）
15. 肩関節疾患の理学療法（実技）

成績の評価

定期試験の結果により判定する。

自己学習

骨関節疾患の理学療法評価を学習するにあたり、1年生で習った解剖学や運動学を基本として展開するため、復習しておくこと。

履修上の注意

本科目は必修科目であるため、積極的に予習と復習を行なうこと。

テキスト

運動器疾患の評価と理学療法
鈴木俊明 監修 アイペック

オフィスアワー

水曜と金曜以外の12:10~13:00 (吉田)

研究室

診療・研究棟3階305研究室 (吉田)

授業用E-mail

t.yoshida@kansai.ac.jp

講義コード	2P141011
講義名	骨関節疾患理学療法学Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	理学療法治療学
科目ナンバリング	P2-0602
対象学科・学年	理学療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 隆紀	指定なし

担当教員

吉田隆紀、山崎 航

講義の目的

運動器疾患の特に下肢疾患に対しての理学療法評価や理学療法技術について学習する。基本的には、各関節における機能解剖学視点から疾患の特徴を学び、その疾患におけるリスク管理や理学療法の実技を踏まえ、授業を行う。

到達目標

運動器疾患の病態及び原因を把握して、評価及び治療への応用を理解することを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 肘関節疾患 肘関節の機能解剖
2. 肘関節周囲の骨折後の理学療法
3. 肘関節の脱臼後の理学療法
4. そのほか肘関節疾患の理学療法
5. 肘関節疾患の理学療法（実技）
6. 手関節疾患 手関節の機能解剖
7. 手関節周囲の骨折後の理学療法
8. その他の手関節疾患の理学療法
9. 手部・手指疾患の理学療法
10. 手関節疾患の理学療法（実技）
11. 股関節疾患 股関節の機能解剖
12. 股関節周囲の骨折後の理学療法
13. 股関節の脱臼後の理学療法
14. そのほか股関節疾患の理学療法
15. 股関節疾患の理学療法（実技）

成績の評価

定期試験の結果で判定する。

自己学習

骨関節疾患の理学療法評価を学習するにあたり、1年生で習った解剖学や運動学を基本として展開するため、復習しておくこと。

履修上の注意

本科目は必修科目であるため、積極的に予習と復習を行なうこと。

テキスト

運動器疾患の評価と理学療法

鈴木俊明 監修 アイペック

オフィスアワー

水曜日と金曜日以外の12:10~13:00 (吉田)

研究室

診療・研究棟3階305研究室 (吉田)

3号館3階理学療法教員室 (山崎)

授業用E-mail

t.yoshida@kansai.ac.jp

講義コード	2P176011
講義名	心身医学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	1 時限
科目分類・分野名	疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進
科目ナンバリング	P2-0214
対象学科・学年	理学療法学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 近藤 哲哉	指定なし

担当教員

郭 哲次・近藤 哲哉

講義の目的

心身医学は、患者を身体面だけでなく、心理面、社会面、論理面を含めて総合的、統合的に診ていこうとする医学です。すなわち一人ひとりの患者に対するbiopsychosocio-ethicalなアプローチが心身医学的ないし全人的医療の究極の目標です。心身医学としての学問体系が築かれたのは、1930～40年代で、米国における精神分析に端を発するとされています。歴史を顧みると、心身医学は神経症学から出発し、狭義の心身症学を経て、総合医学、全人的医療へと発展してきています。「臨床医学の基本としての心身医学」という観点は、このような動向を反映していません。

到達目標

心身医学の概念・歴史から始めて、現代ストレス社会における多様な心身症の病態、診断、治療、予後について正しい理解を深めることに重点をおいています。

授業計画表

授業計画

1. 心身医学—概念と歴史—
2. 心身相関のメカニズム
3. 思春期の心身症（摂食障害）
4. 中年期・更年期の心身症
5. 慢性疼痛
6. 癌と心身医学（サイコオンコロジー）
7. 前半まとめ
8. 性格と疾患の関係
9. 面接法
10. 自律訓練法
11. 呼吸器・アレルギー系の心身症
12. 循環器系の心身症
13. 内分泌・代謝系の心身症

14. 消化器系の心身症

15. 神経・筋肉系の心身症、小児期の心身症

成績の評価

郭が担当する分は試験により評価し、40点満点です。近藤が担当する分は60点満点です。4択問題の問題集を講義中に配ります。試験には、その選択肢を入れ換えたマークシート問題の点数と平常点を合計します両者を合計し、6割以上になれば合格です。追再試験は近藤担当分のみ同様のマークシート問題で行います。

自己学習

講義の進行が遅いと感じる人は、プリントの表の下にある注釈を読んでいてください。通学の電車内の時間も有効に使いましょう。

履修上の注意

近藤の講義では、プリントの、スクリーンに映っている部分よりも上下左右が見たい場合は、その方向を指差すジェスチャーで教えるか、090-2078-2292にCメールを送るか電話してください。画面をスクロールします。質問がある場合、挙手かCメールか電話をして下さい。講義以外の時刻に質問がある場合は、下記にメールして下さい。

テキスト

テキストは必ずしも購入しなくて結構です。
別途プリントを配布します。

参考文献

「心身医学標準テキスト第2版」 (医学書院) 久保千春編
「現代 心療内科学」 (永井書店)
久保千春・中井吉英・野添新一編

オフィスアワー

木曜日12時から約1時間、原則として事前予約が必要(郭)
水曜日午前中(近藤)

研究室

診療・研究棟3階303研究室

授業用E-mail

kondo0724538409@kansai.ac.jp

講義コード	2P181011
講義名	神経内科学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進
科目ナンバリング	P2-0212
対象学科・学年	理学療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 若山 育郎	指定なし

担当教員

若山育郎

講義の目的

神経疾患についての基礎知識を修得する。

到達目標

神経疾患の概要を理解すること。

授業計画表

授業計画

1. 神経内科で診る病気
2. 中枢神経疾患・・・パーキンソン病
3. 中枢神経疾患・・・認知症
4. 中枢神経疾患・・・脊髄小脳変性症
5. 神経筋疾患・・・筋萎縮性側索硬化症
6. 神経筋疾患・・・重症筋無力症
7. 末梢神経疾患・・・Guillain-Barre症候群、CMT病
8. 末梢神経疾患・・・多発ニューロパチー、Bell麻痺
9. 筋疾患・・・進行性筋ジストロフィーなど
10. 筋疾患・・・多発性筋炎、皮膚筋炎
11. 脱髄性疾患・・・多発性硬化症
12. 脳血管障害・・・脳出血
13. 脳血管障害・・・脳梗塞
14. 中枢神経感染症
15. 総括

成績の評価

筆記試験によって行う。

自己学習

特になし。

履修上の注意

出席すること、ノートを取ること。

テキスト

特に指定しない。

参考文献

講義中に紹介する。

オフィスアワー

火曜、水曜の午後0時30分～1時

研究室

1号館205研究室

授業用E-mail

wakayama@kansai.ac.jp

講義コード	2P186011
講義名	人間発達学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	4 時限
科目分類・分野名	人体の構造と機能及び心身の発達
科目ナンバリング	P2-0110
対象学科・学年	理学療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大沼 俊博	指定なし

担当教員

渡邊裕文・大沼俊博・東藤真理奈

講義の目的

人間の発達過程を理解する事は、中枢神経疾患、脳性麻痺の理学療法を行う上で重要である。本科目では、受精から成人までの発達を、主に新生児期、乳幼児期、学童期、思春期の運動・身体面、知能・精神面、行動・社会面の特徴を講義する。特に理学療法士に必要な運動・身体面の発達では、単に運動が可能となる月年齢を理解するだけでなく、運動が可能となる理由も含めて理解する事を目的とする。また正常運動発達に必要な反射・反応も理解する中で、運動との関連性も合わせて講義する。

到達目標

生後1歳までの運動発達の意義を把握する。

授業計画表

授業計画

1. 人間発達とは 1歳までの運動発達概論
2. 人間発達とは 1歳までの運動発達概論
3. 新生児の発達
4. 新生児の発達
5. 1～3ヶ月児の発達
6. 1～3ヶ月児の発達
7. 1～3ヶ月児の発達
8. 1～3ヶ月児の発達
9. 1～3ヶ月児の発達
10. 1～3ヶ月児の発達
11. 4～6ヶ月児の発達
12. 4～6ヶ月児の発達
13. 4～6ヶ月児の発達
14. 4～6ヶ月児の発達
15. 4～6ヶ月児の発達

16. 7～10ヶ月児の発達
17. 7～10ヶ月児の発達
18. 7～10ヶ月児の発達
19. 7～10ヶ月児の発達
20. 7～10ヶ月児の発達
21. 11～12ヶ月児の発達
22. 11～12ヶ月児の発達
23. 11～12ヶ月児の発達
24. 1歳児以降の運動発達
25. 認知的発達過程
26. 認知的発達過程
27. 認知的発達過程
28. 情緒的・社会的発達過程
29. 情緒的・社会的発達過程
30. 情緒的・社会的発達過程

成績の評価

定期試験90%、平常点10%で評価する。

自己学習

解剖学・運動学を理解しておくこと。

履修上の注意

脳性麻痺児、脳血管障害患者への運動療法を理解する上で重要な科目である。

テキスト

「写真でみる乳児の運動発達」(協同医書) 木本孝子・他訳

「運動発達と反射—反射検査の手技と評価—」(医歯薬出版) 真野行生監訳

参考文献

「乳児の発達—写真でみる0歳児—」(医歯薬出版) 高橋孝文訳

研究室

3号館3階理学療法教員室(大沼)

授業用E-mail

ohnuma@kansai.ac.jp

講義コード	2P199012
講義名	整形外科学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	
科目分類・分野名	疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進
科目ナンバリング	P2-0211
対象学科・学年	理学療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 谷埜 予士次	指定なし

担当教員

金本成熙・吉田隆紀

講義の目的

運動器疾患はADLの低下に直結する疾患であり、すでに世界一の高齢社会（今後もさらに進む）の日本においては、理学療法士が果たす役割は今後ますます増加するものと思われる。整形外科学は運動器疾患全般を保存的・外科的に治療する科であるが、理学療法士の協力無くしてはその治療が成り立たない。授業では整形外科学の基礎知識と各疾患の病態、治療法の理解を目的に講義する。

到達目標

運動器疾患の重要性を理解すること。整形外科学で扱う疾患の病態と治療法を理解の上、実際の理学療法の現場に役立つ知識を得ること。

授業計画表

授業計画

1. 画像診断と生化学的検査所見の見方
2. 骨折の保存療法と手術療法
3. 軟部組織損傷の保存療法と手術療法
4. 肩関節の疾患
5. 肘関節の疾患
6. 手関節・手・指の疾患
7. 股関節の疾患
8. 膝関節の疾患
9. 足関節の疾患
10. 頸椎・胸椎の疾患
11. 腰椎の疾患・側弯症
12. 関節リウマチ
13. 末梢神経損傷
14. 末梢循環障害
15. 腫瘍

成績の評価

定期試験によって評価する。

自己学習

半期15回の授業のみで整形外科領域を全て学ぶには時間的余裕はない。学習範囲は広いので、事前にシラバスに沿ってテキストで予習をしていないと授業内容は消化不良となる。予備知識として解剖学・生理学・病理学的基礎知識は十分身につけているものとして講義を進める。大学生であるので、テキストで予習が済んでいる前提で、講義は重要な項目のみ解説を行っていく。

履修上の注意

本科目は必修科目であるため、積極的に予習と復習を行なうこと。

テキスト

「標準整形外科学 第13版」(医学書院)
中村 利孝・他監修

参考文献

「整形外科疾患ビジュアルブック」(学研)
落合慈之 著

研究室

診療・研究棟3階305研究室(吉田)

授業用E-mail

t.yoshida@kansai.ac.jp

講義コード	2P260012
講義名	中国語
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1306.1
対象学科・学年	理学療法学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 晃野 真季	指定なし

担当教員

晃野 真季

講義の目的

初めて中国語に触れる方を対象に学ぶ中国語の入門編です。中国語を習得するために、まず、基礎となる中国語表音ローマ字(ピンイン)の発音を徹底的に指導し、簡体字や機能語及び簡単な構文法を会話練習しながら、少しずつ身に付けるよう勉強して行きます。

到達目標

授業毎に個別に発音・会話の確認を行い、中国語の学習の基盤を作っておく事が目標です。

授業計画表

授業計画

1. 中国語について、受講する際の注意点について
2. 第1課. 発音(1) 声調について
3. 第2課. 発音(2) 母音について
4. 発音・間取り練習
5. 第3課. 発音(3) 子音について
6. 有気音と無気音、発音・聞き取り練習
7. 第4課. 発音(4) 鼻母音(-nと-ng)・r化音について
8. 発音・聞き取り練習、練習問題を解き
9. 第1課～第4課 ピンインのルールをまとめ、習得度確認小テスト
10. ピンイン表でまとめ復習、リスニングテスト、前期末テストについて
11. 第5課. 出迎える
12. 復習、応用問題の練習、作文の準備
13. 第6課. 歓迎パーティー
14. 復習、応用問題の練習、作文の準備・発表
15. 前回続き、作文を発表する. 前期末まとめ練習問題提出
16. 前期授業をまとめ練習問題、作文の問題点について
前期授業内容をおさらいする
17. 第7課. タクシーに乗る

18. 確認小テスト、応用問題の練習
19. 応用問題の練習、前回続き
20. 第8課. 宿泊する
21. 確認小テスト、応用問題の練習
22. 応用問題の練習、前回続き
23. 第9課. 道を尋ねる
24. 確認小テスト、応用問題の練習
25. 応用問題の練習、前回続き
26. 第10課. ショッピングをする
27. 確認小テスト、応用問題の練習、レポートについて
28. 応用問題の練習、前回続き
29. 第11課. おしゃべりをする
30. 年度末まとめ練習問題提出、レポートについて、質問⇔回答

成績の評価

学習態度、授業平常点、期末試験および課題作り・発表、レポートの成績により総合的に評価する。

自己学習

事前にテキスト内容を確認、本文を写し、CDを聴く。授業を受ける条件として、教科書を持参すること。

履修上の注意

出席状況は座席指定と出席カードで確認。授業中に如何なる理由でも退出した場合は出席カードを返却して頂く。20分以上の遅刻、遅刻3回・教科書忘れ1回で欠席とする。私語は厳禁、携帯電話の使用、他の教科を学習した場合、授業を辞退したとする。毎課ごとに採点があり、欠席した場合も、必ずその課の習得度確認を受ける。授業毎に個別に発音・会話を確認する。発音、聞く、話せることを重点に平常点を付ける。詳細事項は開講時に説明する。

テキスト

「しゃべっていいとも 中国語」 (朝日出版社)

陳淑梅、劉光赤著

参考文献

必要時は授業中に指示する。

講義コード	2P273011
講義名	動作分析学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	5 時限
科目分類・分野名	基礎理学療法学
科目ナンバリング	P2-0406
対象学科・学年	理学療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 文野 住文	指定なし

担当教員

文野住文、東藤真理奈、福本悠樹

講義の目的

理学療法評価では、動作を分析できる能力が必要である。特に本学で推奨しているトップダウン評価を行う際には患者が問題となる日常生活動作に関連する基本動作から機能障害を導くことが必要になる。本科目では、患者の基本動作を分析する際に必要となる健常者の基本動作の動作分析ができるようになることを目標とする。具体的には、健常者の動作を解剖学的・運動学的用語を用いて適切に表現（記述）し、健常者における動作特徴を分析することを目標とする。この科目を通して、疾患別の理学療法評価で行う能力障害と機能障害の関連性（関連図）を導くための導入とする。

到達目標

基本動作の動作記述が正確にできる。

授業計画表

授業計画

1. 椅子からの立ち上がり動作
2. 椅子からの立ち上がり動作
3. 椅子からの立ち上がり動作
4. 歩行動作
5. 歩行動作
6. 歩行動作
7. 起き上がり動作
8. 起き上がり動作
9. 階段昇り動作
10. 階段昇り動作
11. 階段降り動作
12. 階段降り動作
13. リーチ動作
14. リーチ動作

15. まとめ

成績の評価

定期試験と平常点（課題成績を含む）で総合的に評価する。

自己学習

解剖学と運動学の知識をよく復習しておくこと。

履修上の注意

1回の授業において課題の動作観察内容を記述させ、担当教員により評価を行う。この評価において、80%以上の学生が合格した段階でその課題は終了となる。また、不合格者には時間外での指導を行う。

テキスト

「臨床理学療法評価法」（アイペック）鈴木俊明 監修

参考文献

特になし

オフィスアワー

火曜日・水曜日・木曜日 12:10～13:10

研究室

3号館3階PT教員室（文野・東藤・福本）

授業用E-mail

bunno@kansai.ac.jp

講義コード	2P276022
講義名	内科各論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進
科目ナンバリング	P2-0208
対象学科・学年	理学療法学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 別所 寛人	指定なし

担当教員

別所 寛人・西山 稔

講義の目的

分子生物学や検査法の進歩により、内科疾患の各分野においても病因・病態の解明が急速に進んでいる。そのため、個々の疾患における病因・病態の理解は患者の全体像を把握するためにも重要である。本科目においては内科診断学で学習した知識を基に、内科系各分野（消化器疾患、肝臓・胆嚢・膵臓疾患、内分泌・代謝疾患、膠原病・アレルギー疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、血液疾患、感染症、腎泌尿路疾患）における病因・病態・診断法・治療法についての最新知識を習得することを目的とする。

到達目標

内科疾患でみられる各種の病態と症状を理解し、必要に応じて医師と適切に連携できる人材の育成を目標とする。

授業計画表

授業計画

- | | |
|----------------|------|
| 1. 消化器疾患① | (別所) |
| 2. 消化器疾患② | (別所) |
| 3. 肝臓・胆嚢・膵臓疾患① | (別所) |
| 4. 肝臓・胆嚢・膵臓疾患② | (別所) |
| 5. 内分泌・代謝疾患① | (別所) |
| 6. 内分泌・代謝疾患② | (別所) |
| 7. 膠原病・アレルギー疾患 | (別所) |
| 8. 呼吸器疾患① | (西山) |
| 9. 呼吸器疾患② | (西山) |
| 10. 循環器疾患① | (西山) |
| 11. 循環器疾患② | (西山) |
| 12. 血液疾患① | (西山) |
| 13. 血液疾患② | (西山) |
| 14. 感染症 | (西山) |

15. 腎・泌尿器疾患

(西山)

成績の評価

到達目標に対する到達度を筆記試験により評価する。

自己学習

参考資料を授業で配布するので予習しておくこと。

履修上の注意

講義中の途中退出、私語、携帯電話の使用は禁止。

テキスト

「標準理学療法学・作業療法学 PT OT 内科学」(医学書院)

参考文献

「わかりやすい内科学 第3版」(文光堂) 井村裕夫編

講義コード	2P279012
講義名	内科診断学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進
科目ナンバリング	P2-0207
対象学科・学年	理学療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 別所 寛人	指定なし
非常勤	西山 稔	指定なし

担当教員

別所 寛人・西山 稔

講義の目的

内科診断学では代表的な内科疾患の病態とそれに関連する症候・症状について解説する。本講義において習得した知識により、患者の病態の全体像を把握し、リハビリテーション実施に際しての正確な判断が行える能力を養うことを目的とする。

到達目標

内科疾患でみられる各種の病態と症状を理解し、必要に応じて医師と適切に連携できる人材の育成を目標とする。

授業計画表

授業計画

- | | |
|--------------------------|------|
| 1. 内科学とリハビリテーション | (別所) |
| 2. 症候・症状の把握 | (別所) |
| 3. 各疾患領域における症候・症状・検査について | (別所) |
| 4. 遺伝・染色体異常 | (別所) |
| 5. 免疫異常 | (別所) |
| 6. 内分泌・代謝異常① | (別所) |
| 7. 内分泌・代謝異常② | (別所) |
| 8. 中毒 | (別所) |
| 9. 循環障害① | (西山) |
| 10. 循環障害② | (西山) |
| 11. 呼吸障害① | (西山) |
| 12. 呼吸障害② | (西山) |
| 13. 造血異常 | (西山) |
| 14. 感染 | (西山) |
| 15. 腎・泌尿器異常 | (西山) |

成績の評価

到達目標に対する到達度を筆記試験により評価する。

自己学習

参考資料を授業で配布するので予習しておくこと。

履修上の注意

講義中の途中退出、私語、携帯電話の使用は禁止。

テキスト

「標準理学療法学・作業療法学 PT OT 内科学」(医学書院)

監修：奈良 勲／鎌倉 矩子

執筆：前田 眞治／上月 正博／飯山 準一

参考文献

「わかりやすい内科学 第3版」(文光堂) 井村裕夫編

講義コード	2P281011
講義名	日常生活活動学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	基礎理学療法学
科目ナンバリング	P2-0405
対象学科・学年	理学療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 米田 浩久	指定なし

担当教員

米田 浩久・東藤真理奈

講義の目的

本科目では、日常生活活動の定義・分類・評価・介入について講義する。基本動作の理解と基本動作と各固有動作が連続することによって成立する身の回り動作の動作構造の把握を基本とする。

到達目標

日常生活活動の定義と動作構造をよく理解する。日常生活活動を障害する因子の階層性を把握し、ADLの評価と治療に反映できるように努める。特に評価については、種々の評価スケールの理解とともに、障害されている日常生活活動の動作構造を、トップダウン評価を用いて把握することができる能力の獲得を目指す。

授業計画表

授業計画

- 第1回 日常生活活動の概念
- 第2回 日常生活活動と国際分類
- 第3回 基本動作
- 第4回 身のまわり動作
- 第5回 コミュニケーション
- 第6回 生活関連動作
- 第7回 ADL評価の方法論とその目的
- 第8回 FIMとBIによる評価
- 第9回 自助具とADL支援機器
- 第10回 疾患別ADL(1)
- 第11回 疾患別ADL(2)
- 第12回 疾患別ADL(3)
- 第13回 疾患別ADL(4)
- 第14回 住宅改修
- 第15回 総括

成績の評価

試験70%、平常点30%

自己学習

毎回の講義内容の復習を欠かさずおこなうこと。基礎ゼミⅠにも反映される内容であることから、理解に充分努めること。また、配布するプリントは必ずファイリングし、来る実習や国家試験対策用の資料として保管すること。

履修上の注意

国家試験領域の科目であるため、予習復習を必ず行い、体系的に理解できるように努めること。

テキスト

毎回の講義でプリントを配布する。

参考文献

「臨床理学療法評価法」(エンタプライズ) 鈴木俊明 監修
「理学療法学テキストⅣ 日常生活活動(ADL) 第2版」(神陵文庫) 千住秀明 監修

オフィスアワー

火曜日 12時～13時 (米田)

研究室

診療・研究棟3階 305研究室 (米田)

授業用E-mail

yoneda@kansai.ac.jp

講義コード	2P283011
講義名	脳血管障害理学療法学Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	理学療法治療学
科目ナンバリング	P2-0604
対象学科・学年	理学療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 鈴木 俊明	指定なし

担当教員

鈴木 俊明

講義の目的

本科目では、脳血管障害患者に対する理学療法評価・技術を習得するために必要な病態について講義する。脳血管障害により生じる片麻痺の神経生理学的メカニズムと、片麻痺としての運動障害を講義する。具体的には、運動障害の要素である痙縮、連合反応、病的共同運動の理解と各々の関連性を解説する。運動障害を理解するうえで、筋緊張の理解は重要である。筋緊張評価について実技を含めて詳細に教授する。

到達目標

脳血管障害の病態、理学療法評価を理解する。特に、筋緊張検査、反射検査は基本手技を正しく理解する。

授業計画表

授業計画

1. 脳血管障害とは ー片麻痺についてー
2. 脳血管障害とは ー片麻痺についてー
3. 運動障害 ー痙縮、病的共同運動、連合反応ー
4. 運動障害 ー痙縮、病的共同運動、連合反応ー
5. 運動障害 ー筋緊張の概念ー
6. 運動障害 ー筋緊張検査1ー
7. 運動障害 ー筋緊張検査2ー
8. 運動障害 ー筋緊張検査3ー
9. 運動障害 ー筋緊張検査4ー
10. 運動障害 ー反射検査1ー
11. 運動障害 ー随意運動能力検査1ー
12. 運動障害 ー随意運動能力検査2ー
13. 運動障害と動作との関連性1
14. 運動障害と動作との関連性2
15. まとめ

成績の評価

定期試験90%、平常点10%で評価する。

自己学習

解剖学、生理学の知識が重要である。

履修上の注意

基礎ゼミⅡで問診、動作分析させていただいた症例を想像しながら授業に臨むこと。また、反射検査は評価学実習Ⅰの内容でもある。

テキスト

「脳血管障害片麻痺に対する理学療法評価」(神陵文庫)鈴木俊明 監修

「神経疾患の評価と理学療法」(アイペック)鈴木俊明・他監修

研究室

診療・研究棟3階307研究室

授業用E-mail

suzuki@kansai.ac.jp

講義コード	2P284011
講義名	脳血管障害理学療法Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	理学療法治療学
科目ナンバリング	P2-0605
対象学科・学年	理学療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 鈴木 俊明	指定なし

担当教員

鈴木 俊明

講義の目的

本科目では、脳血管障害患者に対する理学療法評価・技術を習得するために必要な病態について講義する。脳血管障害により生じる感覚障害を講義する。具体的には、表在感覚障害、深部感覚障害の解説と検査法について理解する。また、高次機能障害に関する講義をおこなう。最後に、脳血管障害患者の動作分析では、動作分析学、評価学総論、評価学実習で習得したトップダウン評価の知識をもとに、詳細な評価ができるように講義する。

到達目標

脳血管障害における理学療法評価技術について習得する。

授業計画表

授業計画

1. 感覚障害 ー表在感覚、深部感覚についてー
2. 感覚障害 ー表在感覚検査1ー
3. 感覚障害 ー表在感覚検査2ー
4. 感覚障害 ー深部感覚検査1ー
5. 高次脳機能障害 ー失行・失認・失語の病態と検査法ー
6. 高次脳機能障害 ー失行・失認・失語の病態と検査法ー
7. 意識障害、認知症
8. 合併症と機能予後
9. 脳血管障害片麻痺患者の動作分析 1
10. 脳血管障害片麻痺患者の動作分析 2
11. 脳血管障害片麻痺患者の動作分析 3
12. 脳血管障害片麻痺患者の動作分析 4
13. 脳血管障害片麻痺患者の動作分析 5
14. 脳血管障害片麻痺患者の動作分析 6
15. まとめ

成績の評価

定期試験90%、平常点10%で評価する。

自己学習

基礎ゼミⅡ、脳血管障害理学療法学Ⅰの知識が必要となるため、復習して望むこと。

履修上の注意

評価技術に関しては、時間外でも積極的に練習すること。感覚検査は評価学実習Ⅰの内容でもある。

テキスト

「脳血管障害片麻痺に対する理学療法評価」（神陵文庫）鈴木俊明 監修

「神経疾患の評価と理学療法」（アイペック）鈴木俊明・他監修

参考文献

特になし

研究室

診療・研究棟3階307研究室

授業用E-mail

suzuki@kansai.ac.jp

講義コード	2P286011
講義名	皮膚科・感覚機能医学①
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	
科目分類・分野名	疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進
科目ナンバリング	P2-0217
対象学科・学年	理学療法学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 松中 成浩	指定なし

担当教員

松中 成浩・保富 宗城

講義の目的

(皮膚科学) 目標に沿って鍼灸師として是非知っておかねばならない皮膚疾患にポイントを絞って講義を進めていく予定である。

(感覚機能医学) 領域としては、耳科学、鼻科学、咽喉頭、気管、食道科学、更には頭頸部外科学等が含まれる。

到達目標

(皮膚科学) 皮膚は最も目につきやすい人体最大の臓器であり、新生児期より老年期に至るまでの生理的变化と共に、自覚的にも他覚的にも早期からの病的異常所見の発見が最も容易な臓器である。特に鍼灸師は、体表の視診、触診により病変を把握する技術が必要とされるため、皮膚科的な知識は、きわめて重要である。また、鍼灸臨床においては、皮膚科的疾患の有無により鍼灸治療の適否も考慮せねばならない。

(感覚機能医学) 医療従事者として必要な耳鼻咽喉科学の知識を習得せしめ、耳鼻咽喉科学を通して医療に対する考え方、接し方を理解させる。

授業計画表

授業計画

(皮膚科学)

- ・乳幼児から高齢者まで皮膚表面には年齢、生活環境、職業などによる種々な生理的、病的所見があり、他の診療科に比べ俗称或いは社会的に知られた皮膚疾患も多い。出生児の母斑、乳幼児や小児の疾患、感染症、癬痒性疾患、良性や悪性の皮膚腫瘍、薬疹、老人の皮膚の所見など鍼灸治療の臨床実習時などに見いだす事の多い皮膚症状をスライドで供覧する。

- ・正常皮膚の構造と機能、皮疹の見方

- ・皮膚疾患の診断のための検査と治療。全身ならびに局所治療、光線療法、凍結療法、レーザー療法、皮膚外科

- ・接触皮膚炎、貨幣状皮膚炎、自家感作性皮膚炎、脂漏性皮膚炎

- ・アトピー性皮膚炎 ・紅斑症、血管炎 ・薬疹、蕁麻疹

- ・自己免疫疾患：エリテマトーデス、シェーグレン症候群、強皮症、皮膚筋炎 ・自己免疫疾

患：天疱瘡、類天疱瘡 ・角化異常症：尋常性乾癬、掌蹠膿疱症、魚鱗癬 ・母斑、母斑症
・老人性皮膚疾患、皮膚良性腫瘍 ・皮膚前癌症、皮膚悪性腫瘍
・皮膚感染症：真菌、細菌、疥癬・皮膚感染症；ウイルス、性病
(感覚機能医学)
・耳鼻咽喉頭の臨床解剖、耳鼻咽喉頭の生理 ・耳鼻咽喉科領域の検査法 ・耳疾患各論 ・鼻
疾患各論 ・咽喉頭疾患各論
・気管・食道疾患各論 ・頭頸部外科学論
(以上は主たる項目であり、内容は適時変更することがある)

成績の評価

(皮膚科学) ミニレポート・筆記試験の総合評価。
(感覚機能医学) 定期試験にて評価する。

履修上の注意

(皮膚科学) 予習の上受講が望ましい。遅刻は厳禁。
(感覚機能医学) なるべく日常的な話をしたいと思います。特殊な領域と思わず聞いて下さい。

テキスト

(皮膚科学) 「あたらしい皮膚科学」(中山書店) 清水宏著
(感覚機能医学) 「イラスト耳鼻咽喉科」(文光堂) 森満保著

参考文献

(皮膚科学)
「Fitzpatrick's Dermatology in General Medicine」(Mc Grow-NY)8thEd.、「Textbook
of Dermatology」(Blackwell)7thEd.、「皮膚科診療カラーアトラス大系」(講談社)編者:鈴木/神
崎
(感覚機能医学)
「新耳鼻咽喉科学」(南山堂)切替・野村 著

講義コード	2P286012
講義名	皮膚科・感覚機能医学②
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	
科目分類・分野名	疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進
科目ナンバリング	P2-0217
対象学科・学年	理学療法学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 保富 宗城	指定なし

担当教員

松中 成浩・保富 宗城

講義の目的

(皮膚科学) 目標に沿って鍼灸師として是非知っておかねばならない皮膚疾患にポイントを絞って講義を進めていく予定である。

(感覚機能医学) 領域としては、耳科学、鼻科学、咽喉頭、気管、食道科学、更には頭頸部外科学等が含まれる。

到達目標

(皮膚科学) 皮膚は最も目につきやすい人体最大の臓器であり、新生児期より老年期に至るまでの生理的変化と共に、自覚的にも他覚的にも早期からの病的異常所見の発見が最も容易な臓器である。特に鍼灸師は、体表の視診、触診により病変を把握する技術が必要とされるため、皮膚科的な知識は、きわめて重要である。また、鍼灸臨床においては、皮膚科的疾患の有無により鍼灸治療の適否も考慮せねばならない。

(感覚機能医学) 医療従事者として必要な耳鼻咽喉科学の知識を習得せしめ、耳鼻咽喉科学を通して医療に対する考え方、接し方を理解させる。

授業計画表

授業計画

(皮膚科学)

- ・乳幼児から高齢者まで皮膚表面には年齢、生活環境、職業などによる種々な生理的、病的所見があり、他の診療科に比べ俗称或いは社会的に知られた皮膚疾患も多い。出生児の母斑、乳幼児や小児の疾患、感染症、癬痒性疾患、良性や悪性の皮膚腫瘍、薬疹、老人の皮膚の所見など鍼灸治療の臨床実習時などに見いだす事の多い皮膚症状をスライドで供覧する。

- ・正常皮膚の構造と機能、皮疹の見方

- ・皮膚疾患の診断のための検査と治療。全身ならびに局所治療、光線療法、凍結療法、レーザー療法、皮膚外科

- ・接触皮膚炎、貨幣状皮膚炎、自家感作性皮膚炎、脂漏性皮膚炎

- ・アトピー性皮膚炎 ・紅斑症、血管炎 ・薬疹、蕁麻疹

- ・自己免疫疾患：エリテマトーデス、シェーグレン症候群、強皮症、皮膚筋炎 ・自己免疫疾

患：天疱瘡、類天疱瘡 ・角化異常症：尋常性乾癬、掌蹠膿疱症、魚鱗癬 ・母斑、母斑症
・老人性皮膚疾患、皮膚良性腫瘍 ・皮膚前癌症、皮膚悪性腫瘍
・皮膚感染症：真菌、細菌、疥癬・皮膚感染症；ウイルス、性病
(感覚機能医学)
・耳鼻咽喉頭の臨床解剖、耳鼻咽喉頭の生理 ・耳鼻咽喉科領域の検査法 ・耳疾患各論 ・鼻
疾患各論 ・咽喉頭疾患各論
・気管・食道疾患各論 ・頭頸部外科学論
(以上は主たる項目であり、内容は適時変更することがある)

成績の評価

(皮膚科学) ミニレポート・筆記試験の総合評価。
(感覚機能医学) 定期試験にて評価する。

履修上の注意

(皮膚科学) 予習の上受講が望ましい。遅刻は厳禁。
(感覚機能医学) なるべく日常的な話をしたいと思います。特殊な領域と思わず聞いて下さい。

テキスト

(皮膚科学) 「あたらしい皮膚科学」 (中山書店) 清水宏著
(感覚機能医学) 「イラスト耳鼻咽喉科」 (文光堂) 森満保著

参考文献

(皮膚科学)
「Fitzpatrick's Dermatology in General Medicine」 (Mc Grow-NY) 8thEd.、「Textbook of
Dermatology」 (Blackwell) 7thEd.、「皮膚科診療カラーアトラス大系」 (講談社) 編者：鈴木
啓之／神崎保
(感覚機能医学)
「新耳鼻咽喉科学」 (南山堂) 切替一郎・野村恭也著

講義コード	2P292011
講義名	評価学実習Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	理学療法評価学
科目ナンバリング	P2-0503
対象学科・学年	理学療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 文野 住文	指定なし

担当教員

文野住文、谷埜予士次、山崎航、福本悠樹

講義の目的

理学療法評価で行われる検査・測定について実技演習を行う。また、授業時間内に実技試験(OSCE)を行いながら検査・測定の技術習得度を確認する。本実習はキャリア科目であり、夏季に3日間の見学実習を行うことでモチベーションの向上も図る。

到達目標

臨床実習において円滑に理学療法評価を遂行できるための基礎知識を得て、検査・測定を正確に行えるようにすること。

授業計画表

授業計画

1. 形態測定概論
2. 肢長測定
3. 周径測定
4. 形態測定の実技試験
5. 関節可動域測定概論
6. 上肢の可動域測定
7. 下肢の可動域測定
8. 頸部・体幹の可動域測定
9. 関節可動域測定の実技試験
10. 徒手筋力検査測定概論
11. 上肢の筋力検査①
12. 上肢の筋力検査②
13. 下肢の筋力検査①
14. 下肢の筋力検査②
15. 頸部・体幹の筋力検査
16. 徒手筋力検査測定の実技試験
17. 反射・感覚検査概論

18. 反射検査①
19. 反射検査②
20. 感覚検査①
21. 感覚検査②
22. 反射・感覚検査の実技試験
23. まとめ

成績の評価

筆記試験、実技試験、さらに夏季に行う見学実習の内容も含めて総合的に評価する。

自己学習

検査測定技術を習得するためにはかなりの練習が必要となるため、授業ではしっかりと技術の習得に努めること。また、授業時間外でも積極的に練習してほしい。

履修上の注意

実技中心で行うため適した服装で臨むこと。また、検査器具を紛失しやすいため自己管理を徹底すること。

テキスト

- 「臨床理学療法評価法」(アイペック) 鈴木俊明 監修
- 「運動器疾患の評価と理学療法」(アイペック) 鈴木俊明 監修
- 「神経疾患の評価と理学療法」(アイペック) 鈴木俊明 監修

参考文献

- 「新・徒手筋力検査法 原著第9版」(協同医書出版社) 津山直一・他訳
- 「ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版」(南山堂) 田崎義昭・他

オフィスアワー

火曜日・水曜日・木曜日 12:10～13:10

研究室

3号館3階PT教員室

授業用E-mail

bunno@kansai.ac.jp

講義コード	2P295011
講義名	評価学総論Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	理学療法評価学
科目ナンバリング	P2-0502
対象学科・学年	理学療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 文野 住文	指定なし

担当教員

文野住文

講義の目的

評価学総論Ⅰの内容を受けて、理学療法評価における問題点の抽出、目標設定までを学習する。

到達目標

臨床実習において、円滑に理学療法評価を遂行できるための基礎知識を得ることを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. トップダウン評価とボトムアップ評価①
2. トップダウン評価とボトムアップ評価②
3. 動作観察と分析①
4. 動作観察と分析②
5. 動作観察と分析③
6. 関連図の作成①
7. 関連図の作成②
8. 関連図の作成③
9. 関連図の作成④
10. 統合と解釈①
11. 統合と解釈②
12. 統合と解釈③
13. 目標設定
14. 理学療法プログラムの立案
15. まとめ

成績の評価

講義内で提示する症例についてのレポート90%、平常点10%で評価する。

自己学習

「人体の機能および構造」、「基礎運動学」、「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」、「評価学総論Ⅰ」の内容を

しっかりと復習しておくこと。

履修上の注意

グループで作成した関連図や統合と解釈を授業内でプレゼンテーション、ディスカッションを行うため、積極的な姿勢で授業に臨むこと。

テキスト

「臨床理学療法評価法」(アイペック) 鈴木俊明 監修

参考文献

授業内で適宜紹介予定である。

オフィスアワー

火曜日・水曜日・木曜日 12:10～13:10

研究室

3号館3階PT教員室

授業用E-mail

bunno@kansai.ac.jp

講義コード	2P297013
講義名	病因・病態学Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進
科目ナンバリング	P2-0204
対象学科・学年	理学療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 伊藤 俊治	指定なし

担当教員

伊藤俊治

講義の目的

疾患の発生と進行についての科学を病理学という。病因病態学とは病理学そのものである。本講義では人体の正常構造・機能がどのように異常を来し、疾患が発生していくかについて、正しい知識を身につけ科学的・体系的に理解することを目的とする。前期の講義では総論のうち、主に組織障害と修復、生体防御について概説する。

到達目標

基本的な身体の機能とその異常について科学的な説明が出来る。炎症、免疫、循環障害などの基本的な疾患のメカニズムを理解し説明できる。また将来の医療従事者として、疾患の診断・治療・予防について自ら習得できるような基盤を身につける。

授業計画表

授業計画

1. 病理学の基礎
2. 組織の障害と適応
3. 組織の障害と適応
4. 組織の障害と適応
5. 組織の修復と再生
6. 組織の修復と再生
7. 炎症
8. 炎症
9. 炎症
10. 循環障害
11. 循環障害
12. 循環障害
13. 免疫系とその異常
14. 免疫系とその異常
15. 免疫系とその異常

成績の評価

試験で評価するが、必要に応じてレポートを課す場合がある。

自己学習

病理学を学ぶためには、生物学（生命のしくみ）、生化学（生命の化学）、人体の構造・機能Ⅰ～Ⅱ、医学概論の知識が必須である。これらの講義の内容を復習・理解しておくこと。また、教科書の該当部分について、事前の予習を強く推奨する。

履修上の注意

出席率の低い者には試験の受験を認めない場合がある。

テキスト

標準理学療法学・作業療法学「病理学」（医学書院）と配付資料を使用する。

参考文献

「ロビンス基礎病理学」（廣川書店）（図書館にあります）

オフィスアワー

随時。金曜午後を除く。実験・研究で部屋にいない場合もあるので、メールで連絡することをおすすめする。

研究室

診療・研究棟 4 F 407研究室

授業用E-mail

itohshun@kansai.ac.jp

講義コード	2P298023
講義名	病因・病態学Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進
科目ナンバリング	P2-0205
対象学科・学年	理学療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 伊藤 俊治	指定なし

担当教員

伊藤俊治

講義の目的

前期の病因・病態学Ⅰと同様である。後期の講義では総論のうち、主に感染症、先天性疾患と腫瘍について概説し、あわせて病理学各論について各組織における疾患の病因・病態を理学療法学に関連する疾患を中心に講義する。

到達目標

前期の病因病態学Ⅰと同様に、講義の範囲の基本的な疾患のメカニズムを理解するための知識を得る。また将来の医療従事者として、疾患の診断・治療・予防について自ら習得できるような基盤を身につける。

授業計画表

授業計画

- 1-2.総論：病因・病態学Ⅰの復習
- 3-4.総論：感染症
- 5-6.総論：腫瘍
- 7-8.総論：腫瘍
- 9-10.総論：先天異常
- 11-12.総論先天異常
- 13-14.各論：循環器
- 15-16.各論：呼吸器
- 17-18.各論：消化器
- 19-20.各論：泌尿器
- 21-22.各論：運動器（骨・軟骨）
- 23-24.各論：運動器（関節・筋肉）
- 25-26.各論：神経系
- 27-28.各論：その他
- 29-30.まとめ

*3回程度、非常勤講師による講義を行う場合がある

成績の評価

試験で評価するが、必要に応じてレポートを課す場合がある。

自己学習

前期の病因・病態学Ⅰの講義の内容を復習・理解しておくこと。また前期の病因・病態学Ⅰと同様、事前に教科書の該当部分について予習しておくことを強く推奨する。

履修上の注意

出席率の低い者には試験の受験を認めない場合がある。

テキスト

標準理学療法学・作業療法学「病理学」（医学書院）と配付資料を使用する。

参考文献

「ロビンス基礎病理学」（廣川書店）（図書館にあります）

オフィスアワー

随時。金曜午後を除く。実験・研究で部屋にいない場合もあるので、メールで連絡することをおすすめする。

研究室

診療・研究棟 4 F 407研究室

授業用E-mail

itohshun@kansai.ac.jp

講義コード	2P312011
講義名	物理療法学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	5 時限
科目分類・分野名	理学療法治療学
科目ナンバリング	P2-0616
対象学科・学年	理学療法学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 鬼形 周恵子	指定なし

担当教員

鬼形周恵子

講義の目的

物理療法の機器について基礎を学ぶ。

到達目標

物理療法の機器について、どのようなものがあるか、どのような疾患に適応または禁忌なのかを理解する。

授業計画表

授業計画

- 1.物理療法とは
- 2.温熱療法
- 3.温熱療法
- 4.温熱・寒冷療法
- 5.光線療法
- 6.牽引療法
- 7.牽引療法
- 8.水治療法
- 9.電気療法
- 10.電気療法
- 11.バイオフィードバック療法
- 12.物理療法のまとめ
- 13.物理療法の機器を用いての実習
- 14.物理療法の機器を用いての実習
- 15.物理療法の機器を用いての実習

成績の評価

後期試験で評価する

履修上の注意

プリントを配ります。プリントをまとめるファイル等を用意してください

参考文献

運動器疾患の評価と理学療法...アイペック
テキスト 物理療法学 基礎と臨床...医歯薬出版

オフィスアワー

16時以降、診療所のリハ室にいます

研究室

3号館3階理学療法教員室

授業用E-mail

onigata@kansai.ac.jp

講義コード	2P330011
講義名	麻酔蘇生学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	4 時限
科目分類・分野名	疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進
科目ナンバリング	P2-0218
対象学科・学年	理学療法学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 谷埜 予士次	指定なし

担当教員

喜馬通博・櫻葉 均・谷埜予士次・山崎 航・福本悠樹

講義の目的

本講義では、麻酔蘇生学の理解に欠かせない解剖学・生理学・呼吸器・循環器について必要な知識を学ぶとともに「救急医学・集中治療医学」の基本を学ぶ。またさらに麻酔は痛みからの解放であるということから、痛みに対する理解を深め、理学療法との関わりについても講義する。

到達目標

麻酔蘇生、痛みに関する解剖学・生理学を理解し、理学療法との関わりについても理解する。

授業計画表

授業計画

1. 麻酔とは①
2. 麻酔とは②
3. 蘇生とは①
4. 蘇生とは②
5. 痛みの一般的性質
6. 痛みの神経機構
7. 神経筋疾患における痛みに対する理学療法①
8. 神経筋疾患における痛みに対する理学療法②
9. 神経筋疾患における痛みに対する理学療法③
10. 神経筋疾患における痛みに対する理学療法④
11. 運動器疾患における痛みに対する理学療法①
12. 運動器疾患における痛みに対する理学療法②
13. 運動器疾患における痛みに対する理学療法③
14. 運動器疾患における痛みに対する理学療法④
15. まとめ

成績の評価

定期試験にて評価する。

自己学習

授業で話した内容、資料、ノートの見直しをして理解を深めてほしい。

履修上の注意

講義中に説明する。

テキスト

特に指定しない。適宜資料を配布する。

参考文献

適宜紹介する。

オフィスアワー

月曜日：昼休み（谷埜）

研究室

管理棟2階206研究室（檜葉）・診療・研究棟3階308研究室（谷埜）・
3号館3階理学療法教員室（山崎・福本）

授業用E-mail

tanino@kansai.ac.jp